



教育特集

# 多治見の教育を担う人 支える人

時代の変化と共に、子どもたちを取り囲む教育環境も大きく変化しています。今回の特集は、教育の現場で現在の子どもたちを支えるさまざまな取り組みを紹介します。

☒ 教育推進課 おおまえ 大前 TEL 23-5904、教育研究所 くまがき 熊崎 TEL 23-5920、教育相談室 加藤 TEL 23-5942

**文** 部科学省は、子どもたちに土曜日における充実した学習機会を提供する「土曜日の教育活動支援体制構築事業」を推進しています。多治見市ではその本来の土曜学習の意味に加え、自分たちのまちの良さを体験的に学ぶことで将来の多治見市を担っていく“人財”を育てることを目的にしています。そのため、多治見市の土曜学習は、多治見の特色が分かる「文化財」や「産業」といったテーマの講座が多くなっています。また、体験的な講座にするため、例えば「虎渓山永保寺を学ぶ」という講座であれば座禅体験を入れたり、「美濃焼名人になろう」という講座であればろくろを使った作陶をプログラムに組み込んだりしています。毎回、その道のプロフェッショナルと言われる方々を講師として迎え、子どもたちに熱心なご指導をいただいています。

多治見市独自の土曜学習の取り組みは今年で3年目になります。毎回申し込みが多く、抽選で参加者を決定しなければならないほど定着してきました。アンケートを実施すると、参加した子どもからは「参加して楽しかった」というような感想がほとんどです。また、保護者からは「見てきたこと、聞いてきたことを家で生き生きと話してくれました（虎渓山永保寺を学

郷土を知る学習「土曜学習」わがまち多治見大好き講座」

ぶ）」や、「帰り道にタイルがないかと探したり、とても興味を持ったようでした（タイル博士になろう）」などの感想を多数いただき、子どもたちが本当に楽しんで学んでいることをうかがい知ることができます。

参加者の中には、最近多治見に移住してきたばかりで、多治見が陶器のまちだということを知らなかったという子もいました。現在、市内には約8,000人の児童生徒がおり、うち土曜学習に参加できるのは8パーセント前後です。まだ、多治見の文化、歴史、産業のことをよく知らない子どもたちがたくさんいます。今後も、地域の皆さんの協力をいただきながら、多治見を誇りに思う子どもたちを増やしていきたいと思えます。

みやじまあつこ  
宮島敦子

教育委員会教育研究所  
土曜学習コーディネーター

# 幼少期からの英語教育が 目指すところは、 コミュニケーション能力の 育成です。



国際化が進み注目が集まる英語教育。平成32年度からは、小学校高学年から英語の授業とそれに伴う学習評価が行われるようになりま  
す。笠原地区では合併前から英語教育に力を入れており、文部科学省  
から長年にわたって研究校指定を受けるなど、その取り組みは先進  
的です。笠原地区に赴任した教員が他の学校に転任することで、笠原  
地区で培ったノウハウが市内全域に波及しています。

【塚田】笠原小・中学校が文部科学省の「※英語教育研究開発学校」に指定されたのは今から15年前の平成15年。その前年、笠原校区は「幼保小中一貫教育」をスタートさせ、その柱の1つとして英語教育の強化を掲げました。一貫教育に踏み切れた大きな理由は、合併前の笠原が、幼稚園、保育園、小学校、中学校各1校で、しかも独自の教育委員会を有していたからと言えます。全国的にも珍しい先進的な取り組みに文部科学省が注目し、研究開発校の指定へとつながりました。

※次の学習指導要領を決めていくための実践学校のこと

【大坂】私が英語指導助手(ALT)として笠原小学校へ赴任したのは平成16年です。そのころと比べ児童数は減りましたが、子どもたちの「英語が好き」という気持ちに変わりはありません。英語で歌ったり、ゲームをしたり、自分の気持ちや考えを伝え合ったりすることが楽しいのだと思います。現在は、6学年14学級をもう一人のALTとボブさんと教えています。幼稚園と保育園には中学校のALTウィリアムさんと交代で行きます。幼い子どもは英語を耳から覚えます。聞いた英語がすんなり口から出てくる様子は何度見ても驚かされます。

【塚田】現行の学習指導要領では、英語の授業は小学5年生から始まります。笠原校区では、園児のころから週1回はALTと触れ合います。小学5・6年生になると週2時間の英語の授業を受けます。幼少期からの英語教育が目指すところは、コミュニケーション能力の育成です。これは、英語に限らず、人との関わり全般に言えることです。笠原の子どもたちは、このコミュニケーション能力が高いと感じます。コミュニケーション能力の高さは同時に人を思いやる心を育てます。例えば、小学5・6年生ぐらいになると、どうしても男女がよそ



▲お話を伺った笠原小学校教務主任 塚田雅弘先生(右)と英語指導助手(ALT)の大坂浩子先生(左)

将来、ここでの経験を  
思い出して、人との壁を  
軽く超えられるといい。

若手教員の育成 /

## アンダー6

多治見市では、6年目までの若手教員を対象に、教員OBが助言や指導を行う「アンダー6」という取り組みを実施しています。

**斉藤**「教育は人なり」と言われます。これは、どんなに時代が変わり技術が発達しても、子どもを豊かに育て能力を引き出すことができるのは教員という人間にかかっているという意味です。私は、この重責を担う教員の皆さんのために少しでもお役に立てればと、退職後、アンダー6の取り組みに関わっていくことを決めました。指導をする時には良いところを大切にしよう心掛けています。若い先生たちは話をよく聞き、授業に生かしてくれているようです。今後は、さらに「自分はこんな授業がやりたい」という強い願いを持って成長してほしいと思います。



▲指導をする齊藤敦司先生

**丸山** 私は各務原市出身の教員3年目の新米です。教科は英語。今年度は1年生のクラス担任をしています。教員になるのが小さいころからの夢



▲丸山晴子先生

だったので、初めて教壇に立ち生徒と向き合った時はうれしかったですね。でも、直前まで学生として学ぶ立場だったのが、逆に教える側になったことで、すぐには実感が湧きませんでした。アンダー6では、事前に私の授業を見学した指導主事の先生から「こんな質問の仕方がいいね」や「こうしたら話が深まるよ」など具体的な助言をいただき、今後の授業に生かしています。また、「3つの見届け(実態を見届ける、学習状況を見届ける、定着状況を見届ける)」に基づき、一緒に授業を振り返ることもできるのでありがたいです。私にとって経験豊富な指導主事の先生は、頼れる父親のような存在です。

**塚田** 昨年11月に、文部科学省の「英語教育研究開発学校」として公表会を開催しました。北は仙台、南は宮古島から、英語教育に関わる学校関係者、民間学習塾や出版社の方など、総勢4百人もの参加がありました。全国的に関心が高いことがうかがえます。日本の英語教育行政の先頭に立って見える、文部科学省初等中等教育局の直木綿子<sup>なほ</sup>教科調査官も授業を視察されました。長年にわたって、ずっと指導・助言をいただいていた方です。今回の公表会は、指定第5期目の総まとめの大事な公表会でした。直山調査官からは、「これまでの課題を全てクリアした

よそくなりがちですが、ここでは分け隔てなく仲よく話すことができそうです。また、高学年の子たちが責任をもって小さい低学年の子たちの面倒をよくみます。これは、学校生活にも良い影響を及ぼしていて、小学校全体の雰囲気にもつながっています。

**大坂** 私は、主人の転勤で予期せずアメリカに住むことになった経験があります。コミュニケーションの大切さは身に染みて分かります。人生何があるか分かりません。笠原の子たちが、いつか回りの環境がガラリと変わった時に、コミュニケーションの楽しさ、大切さといったここでの経験を思い出し、人との壁を軽く超えられるといいなと思います。



▲ALTのボブ先生が行う1対1の試験の様子

見事な授業」と高い評価いただきました。

私たちは、次の学習指導要領を作るための実践校として英語の指定校になっています。従って、いわゆる教科書というものは無く、「<sup>※1</sup>指導計画集」と呼ばれる電話帳ほどもある計画書に沿って、授業を行っています。直山調査官を始め、<sup>※2</sup>運営指導委員会の方々にも指導・助言を得て、質の高い英語教育が実践できていると自負しています。ここでの取り組みをぜひ市内全域に広めていきたいと考えています。

<sup>※1</sup>45分(1時間)、6年分の授業を計画したものを  
<sup>※2</sup>大学教授や県の指導主事などで構成される  
諮問機関で年2回開催



北栄小学校コミュニティ・スクール

▲左列手前から福井さん(学童コーディネーター)、井上さん(PTA会長)、大脇さん(北栄サポートネット代表)  
右列手前から谷口さん(見守り隊)、舟木さん(民生児童委員)、林さん(青少年育成推進委員)、武笠委員長(元36区長)、中野先生(生徒指導主事)

## 子どもの笑顔が増えることを願って

【大脇】運動会など大きな行事の際は駐車場係もします。コミュニティ・スクールを始めたおかげで、隣の北陵中学校との

【林】こうした取り組みでよくあるのが、「学校に物申す」だけの組織です。私たちは、「何でも自分たちでやろう」という姿勢を崩しません。さまざまな活動に参加するので、自然と生徒や保護者の顔も覚えやすし、学校で何が行われているか手取るようになります。

【武笠】今から7年前の平成22年、当時の北栄小学校の校長が突然面談にきました。用件は、北栄地域独自の「コミュニティ・スクール」を作りたいからぜひ協力してほしいというものでした。この要請を受け最初に取り掛かったのが委員選びでした。活動を始めて今年で7年目になります。子どもの笑顔が増えるように」という同じ思いで協力し合える素晴らしいメンバーです。



### 地域と一体となった学校運営

コミュニティ・スクールとは、学校と保護者や地域の皆さんが共に知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支える仕組みのことです。多治見市では、今回紹介する北栄小学校を始め、市之倉小学校と脇之島小学校の3校でこの取り組みを始めています。

【中野】本日の会議テーマに「資源回収」がありました。以前は、収集の手順、

【谷口】登下校の見守りをしていると、ほとんどの子が大きな声であいさつをしてハイタッチしてくれます。中には下を向いたままであいさつができない子もいるので気を付けて見守るようにしています。



▲北栄小学校 奥村校長

## 自信へとつなげるために

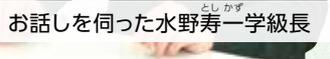
### —— さわらび学級の取り組み ——

学校へ行けない、行くと気分が悪くなるなど、学校へ通う“エネルギー”が無い子がここへ来ます。感受性豊かで傷つきやすく、自信がない子が多いのが特徴です。ここでは自主性を尊重し、勉強や体験学習など何をするにも本人が選択して決めます。その積み重ねの中で好きなことが見つかると、さらに得意なことができると達成感を味わうことができます。それが、自信へとつながるのです。ここを卒業した子たちが、「就職が決まった」「スポーツで全国大会に出場する」などと聞かされたとき、うれしい気持ちとここでの自立への指導が役立っていることを実感します。

さわらび学級は不登校児童・生徒のためだけの施設ではありません。学校には言えないけど、悩んでいる保護者の皆さんは気軽に相談してください。

さわらび学級(美坂町8-8)  
TEL23-7867

お話を伺った水野寿一学級長



「や方法など全てを学校とPTAだけで決めていました。でも、当然のことながら、地域のことはその住民の方が良く分かっていますので、いつもこの会で最善の提案がいただけます。収集が滞りなくできるような考えて動いていただけるのも本当にありがたいです。」

【武笠】資源回収のこともそうですが、この会に参加することで、PTAや学校が何をやるうとしていのか把握することが出来ます。そこで、自分たちがどう役立つことができるか考えて参加させてもらっています。

大変助けられています。皆さん、学校がやりたいこと、またはやろうとしていることを下支えして下さっています。児童引き取り訓練の時などは、こちらから特に依頼をしなくても率先して交通整理をしてくれますし、PTA行事の時も、「こうしたらいいんじゃないか」と考えて行動してください。毎月開催するコミュニティ・スクールの会はいつも和気あいあいとして、自然な形で前向きな意見を出してください。私はこの北栄小学校独自のコミュニティ・スクールを誇りに思っています。

## 子どもと家庭に寄り添う支援

# スクールソーシャルワーカー

<学校福祉相談員>

**学** 校で直面する子どもに関わる困り事に対し、支援の手を差し伸べるのが私たちの仕事です。子どもに関わる困り事というのは、家庭、学校、友達関係など、子どもを取り巻く環境の中から生じるさまざまな問題のことです。特に多いのは、経済的な問題やそこから波及する子育ての問題です。私たちは、保護者や子どもの気持ちを尊重しつつ話をすることから始めます。社会福祉や医療などの専門的な知識を生かし、背景にある問題に対して活用できる制度や機関を紹介し、それぞれの機関につなげていくことが私たちの大きな役割です。

例えば、子どもに発達障がいがあり、安心して働くことができず、経済的に困っている家庭に対しては自立支援センターを紹介しました。また、子どもには放課後デイ・サービスの利用を提案しました。もちろん、これらの支援はスクールソーシャルワーカーだけの判

断ではなく、学校や関係諸機関と連携しています。

現在、多治見市のスクールソーシャルワーカーは私たち2人です。毎日2~3校を、曜日を決めて訪問しています。

学校には言いづらいけど、子どものこと、生活のことで悩みを抱えているなら、迷わず私たちスクールソーシャルワーカーに相談してください。

教育相談室  
直通電話  
TEL23-5942

お話を伺った丸山 綾さん(右)と  
長江恵理子さん(左)

